

農技セ第5006号
令和8年5月13日

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長

令和8年度農作物病虫害発生予察情報について

令和8年度農作物病虫害発生予察注意報第1号を発表したので送付します。

令和8年度病虫害発生予察注意報第1号

令和8年5月13日
徳 島 県

4月第6半旬から5月第2半旬における予察灯調査において、果樹カメムシ類の誘殺数が平年に比べて多く、今後、果樹園への飛来及び被害の拡大が予想されますので、注意報を発令します。

現地ほ場においては、本虫の発生状況を注視するとともに、適切な防除指導をお願いいたします。

作物名：果樹全般(特にウメ、モモ、ナシ、カキ)

病虫害名：果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ)

1. 発生地域 県内全域
2. 発生時期 5月上旬～
3. 発生程度 多(前年より多く、平年より多い)
4. 注意報発令の根拠

(1) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、成虫数が4.7頭/m²と、平年(3.1頭/m²)に比べて過去10年で3番目に高い越冬密度であった(図1)。

(2) 上板町及び勝浦町に設置した果樹カメムシ類予察灯への4月第6半旬から5月第2半旬におけるツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ、クサギカメムシの誘殺数が、上板町では691頭と平年(95頭)の7.3倍であった(図2)。

また、勝浦町では723頭と平年(64頭)の11.3倍が誘殺された(図3)。

(3) 高松地方气象台が4月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高いと予想されており、今後果樹園への飛来及び加害の増加が予想される。

5. 防除法等

- (1) 果樹園周辺の山林や雑木林から成虫が飛来してくるので、園内を巡回し、飛来を確認したら早急に防除を行う。
- (2) モモ、ナシでは、早めに袋掛けを終える。
- (3) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。

- (4) 移動性が高いので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。
- (5) 飛来が続く場合は継続的な防除が必要となる。多発時には合成ピレスロイド系剤 (IRAC コード：3A) が防除に適するが、薬剤の影響でハダニ類、カイガラムシ類が増加する場合がありますので注意する。
- (6) 薬剤を散布する場合は、風向きに注意し、圃場周辺への薬剤飛散防止に努める。なお、風の強い日の散布は控える。
- (7) 今後の発生動向については、農林水産総合技術支援センターウェブページ内、病害虫防除所の各種データ (<https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshovarious-data/preliminary-guess-light/>) を参考にする。
- (8) 防除については、徳島県植物防疫指針 (<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/tokushima>) を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

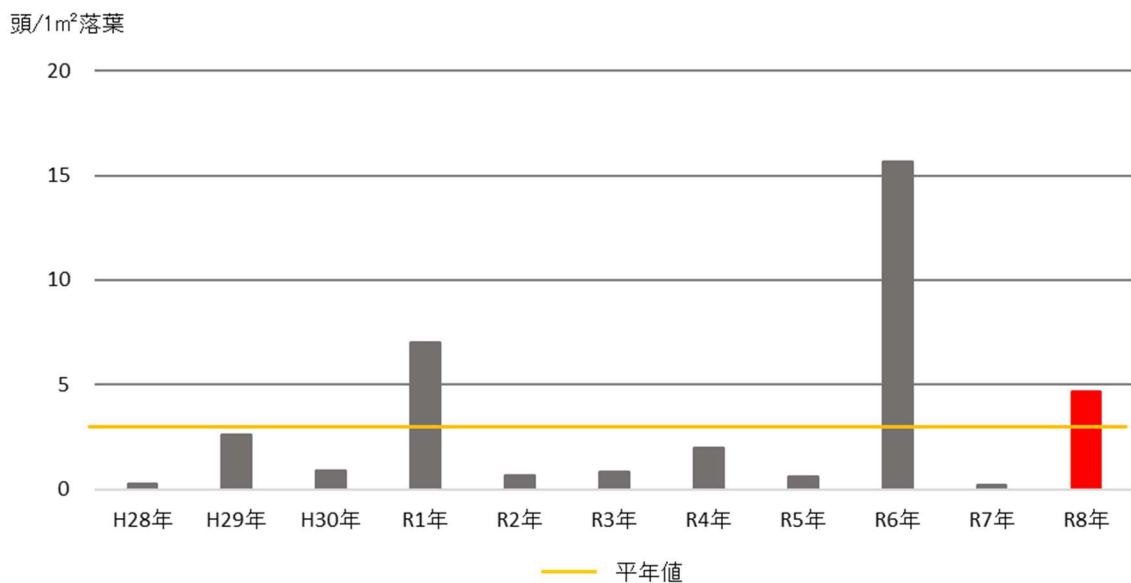


図1 チャバネアオカメムシの越冬数調査(県全体)

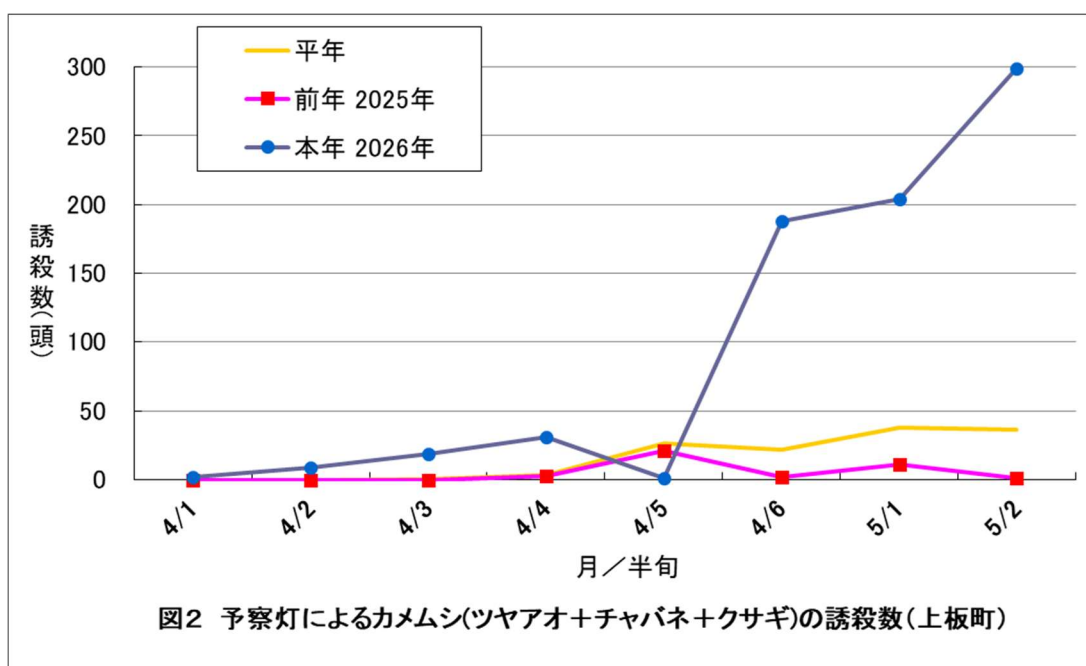


図2 予察灯によるカメムシ(ツヤアオ+チャバネ+クサギ)の誘殺数(上板町)

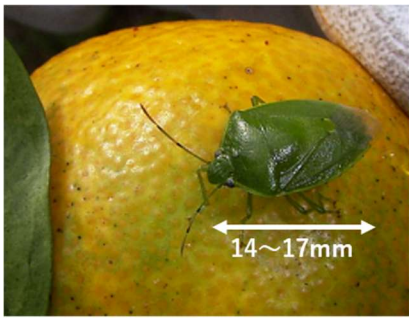
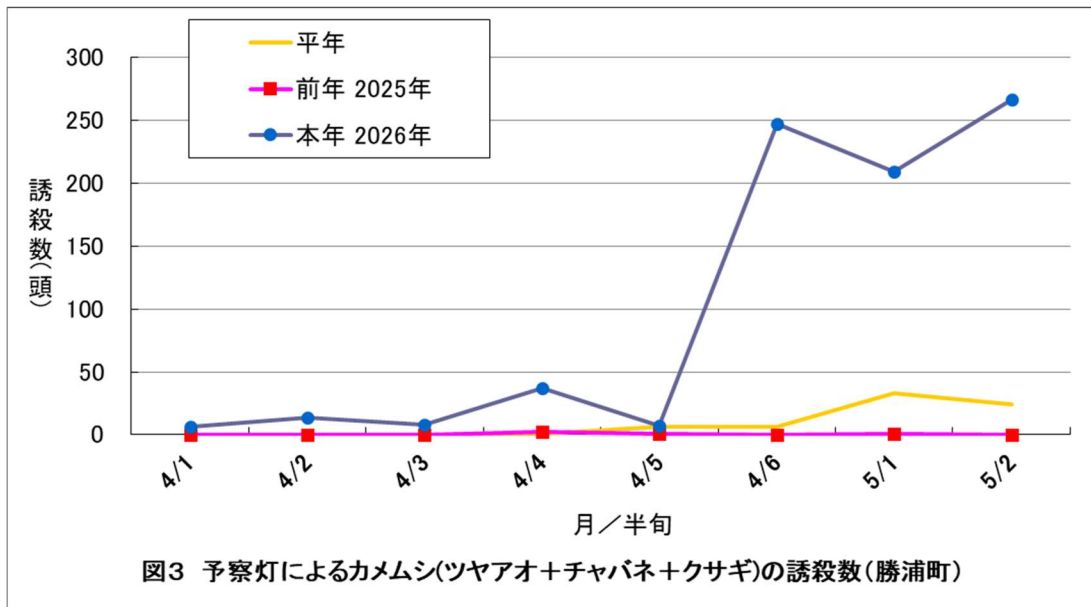


図4 ツヤアオカメムシ



図5 チャバネアオカメムシ

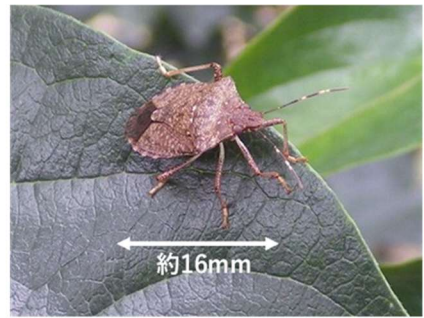


図6 クサギカメムシ